

学連がらみの旬な情報をお届けするコーナーです。
その時の旬な活動を掲載しますので ご覧ください。

学連NEWS!

さて、今回は10月12日(月・祝)に行われました「学連サッカー」を取り上げてみようと思います。



学連サッカーとは?!

学連サッカーでは、関西学生サッカーに関わる
様々な人たちが集まり、それぞれの立場や世代といった
枠をとっぱらって、サッカーをします。

昨年度までは年明けに行うのが恒例でしたが、今年度1回目の
学連サッカーはそんな考えもとっぱらいリーグ戦の合間にすることが
できました。

その背景には2009年3月1日に行われた学連サッカーの日の
「佐藤宣言」の想いを受け継ぎたいという若手の有志たちの志、そして
森岡事務局長と学連幹事が汗をかくことで実現したものです。

2005年から始まった学連サッカーの趣旨、そして今回の感想を
学連サッカー大会開催実行委員幹事、神戸国際大学サッカー部監督の
廣田景一氏 よりコメントをいただいたので掲載します。

学連サッカー大会開催実行委員幹事、
神戸国際大学サッカー部監督
廣田景一

「学連サッカーは大学サッカーの将来を語り合う手段である。
みんながより深く繋がることで関西学生サッカーの価値は上がる。」

「佐藤宣言」とは・・・

2009年3月1日に行われた
第4回学連サッカーの後の交流会の
時に関西大学サッカー部OB会長で
関西学生サッカー連盟理事の佐藤
弘一氏による「未来・夢構想」
スピーチのことだ。

ーよりよい関西学生サッカーを
つくるため、ファンを増やし学生
サッカーのメッカをつくり上げるこ
とー
を宣言され、その場は拍手喝采と
なった。

「学連サッカーは様々な立場ですべきこと
をしている人たち、いわゆる大学サッカーの
監督や選手やそのスタッフ陣、学連などの
マネージメントサイド、審判、メディア、が
関西学生サッカーの将来を語り合うための
手段です。関西学生サッカーをもっと盛り上
げて、価値のあるモノにするためによりよい
組織を築いていってもっとみんなが深く関り
あえるための学連サッカーにして、今後も
どんどん続けていきたいと思っています。」

なお、神戸国際大学のサッカー部のブログ
にも廣田さんの感想が詳しく載っています
ので是非ご覧ください。

神戸国際大学のサッカー部のブログの URL :

<http://web.mac.com/keiichi8x8/Site/Blog/Blog.html>

「大学サツカー」から見る 「大学サツカー」の定義と現場

老若男女が集う

関大グラウンド

十月一二日月曜日、天候に恵まれ、無事に第五回学連サッカーを行うことができた。

この日は約八〇名の参加者を集めることができ、関大グラウンドは多くの人たちで賑わっており、いつもは真剣ムードが漂うこの場所もサッカー好きがあつまる広場と化していた。サッカー好きといっても女性も三〇名ぐらい参加していて年配の方もプレーに参加していた。

しかもこの参加者たちは何らかの形でサッカーに関わっている人たちがほとんどである。この光景をみて大学サッカーは本当に多くの人達が関わっており、支えられているのだなと感じた。また、大学サッカーはその分、他の世代のサッカーとは違うなとも思った。

大学サッカーは、ご存じな人も多いと思うが、大人の方だけでなく学生が運営などのマネジメントに多く関わっている。またプレスなど者の中に学生がいて、監督や選手たちに取材したりしている。

今回の学連サッカーにそういった分野で関わる学生や、マネージャー等も多く参加していた。そして学連サッカーの運営自体は学生が主体だったと思う。もちろんそれまでには大人の役員の方々が計画をたてたりして実現に至ったものだが、当日に成功できたのはその時の学生の存在が大きかったのではないかと思った。

現場の指揮を昨年の関西大学の主務で今は同大学のコーチを務めている東氏が務め、そのサポート役に関大の選手たちがいた。

そういった様々な光景を見て大学サッカーとは大人と学生との繋がりによってできる、他の世代やプロのサッカーにはない唯一の存在ではないだろうか。むしろその繋がりが

なければ大学サッカーに価値はない。もちろんその繋がりととは運営面だけでなくプレスや審判、コーチなども含めてのことだ。

左ページで廣田氏がいったように大学サッカーの未来はみんなの繋がりが本場に大事だと思う。縦と横の関係の多さと深さの分だけ大学サッカーはこれからも成長し、価値のあるものになると思う。

ちなみに、学連サッカーのMVPは学生で二得点決めた桃山大、学連幹事の成松勝利氏で間違いない(と思う)。



！場をしきって頂いた
！大コーチの東 剛史氏

東コーチの感想

「この日は色んな方がきていて、サッカーで繋がっているんだなと思ひ、学生サッカーを盛り上げようというのを感じた。こういった活動は他の地域にはないと思うし、関西のサッカーから日本全体を盛り上げていきたい。また、これからもどんどん続けていきたいと思っています。」



写真：

左上：運営のサポートして頂いた関大サッカー部員の人たち

右上：全体写真

左：その後の交流会の様子



：真は関西学生サッカーブログにも掲載しています⇒<http://jufa-kansai.blog.eonet.jp/>